

5. 景観デザイン指針（土木施設編）

《目 次》

(1) 景観デザインの基本原則	16
(2) 構想段階	17
(3) 計画段階	18
① 道路景観	
② 水辺景観	
③ 橋梁景観	
④ 緑地景観	
(4) 設計段階	30
① 道路景観	
② 水辺景観	
③ 橋梁景観	
④ 緑地景観	
(5) 施工段階	51
(6) 維持・管理段階	52
(7) 関連資料	53
① 写真撮影箇所一覧	
② 用語解説	
③ 参考文献	

（1）景観デザインの基本原則（篠原修編「景観用語辞典 増補改訂版」／彰国社より転載）

公共施設や公共空間は、不特定多数の人々が日常的に利用するものであり、また耐用年数がきわめて長いものなので、誰が見てもまた時の推移に対しても普遍的な美しさを持ったものを作る必要があります。

このため、景観デザインにあたっては、一貫した考えのもとに、次第に成熟していくような設計を心がけるべきであり、決して一時の流行や設計者の趣味に左右された設計をしてはいけません。以下に景観デザインにあたって遵守すべき五つの基本原則を示します。

① 応格の原則

公共施設には、機能的な面での「格付け」と位置や使われ方による「格付け」があります。例えば、道路では幹線道路、区画道路などの機能面での格付け、また表通り・裏通り、目抜き通り、路地などの格付けがあります。「格」が異なれば、利用方法や雰囲気、景観が異なるのは当然あり、この格に応じた景観デザインを行うことが求められます。

② 洗練の原則

構造物を設計する際には、強度と耐久性を考えて構造計算を行い、寸法が決まります。この構造計算から求められた寸法は、力学的にもたせるための寸法であり、生の形です。

それを全体のバランスやプロポーションから見直して、より洗練された姿・形に仕上げていくことが必要です。構造物の形を整えることを「造形」と言います。

③ 背景の原則

景観デザインにあたっては、主役（図）と脇役（地、背景）、さらには舞台との関係をわきまえることが重要です。河川景観においては、主役は水や水辺で遊ぶ人々であり、護岸はそれらを美しくあるいは快適にするための舞台装置です。しかし、舞台だからといって粗っぽく仕上げてはいけません。人間が引き立つような舞台として、目触りと肌触りのよいディテールとする必要があります。

④ 首尾一貫の原則

景観形成には、事業実施及び空間形成の両面で首尾一貫が求められます。事業実施の側面では、構想、計画、設計、施工、維持管理に至る事業の時間的な流れの中で、また空間の側面では、道路、河川の景観が沿道や沿川の施設や土地利用などと一体となって統一され、首尾一貫した考えが具体化されるよう努力する必要があります。

⑤ 他力本願の原則

景観は、天候、季節、年月によって変化し、また土地利用の変化や建物の更新などによっても変化します。自然は、景観を変化させ、成熟させる力を持っています。そこで、自然などの他力をうまく活用し、景観形成に役立てることが出来ます。その第一は、自然素材の導入です。第二は、自然の地物の取り込みです。遠景の山や水面を道路や建物の眺めに取り込めば、印象深い景観を創り出すことが出来ます。

（２）構想段階

地域の景観は、自然、歴史、文化等とそこに暮らす人々の営みが調和することによって、育まれ、形成されていくものです。例えば河川や水路の周辺では、利水・治水を通じて生活や文化に密接な関わりをもちながら形成された水郷景観が、旧街道の沿道では宿場を中心として発展した宿場町の街並みが、山間部では山並みを背景とした集落による農村景観が形成されてきました。こうした景観資源を把握することが、地域の良好な景観を形成・保全していく上で重要なことです。

1) 区域周辺の景観資源の調査、把握・・・場所性（場の環境）の読み取り

○自然景観を読みとる

- ・山、丘陵地、斜面などの自然地形を読みとる
- ・河川、海、水路、池などの水辺空間を読みとる
- ・田園や畑、果樹園など農地の風景を読みとる
- ・地域の特色となる動植物の生息状況を読みとる

○歴史・文化的景観を読みとる

- ・寺社仏閣や史跡、伝統的家屋など、地域周辺の歴史的建築物を読みとる
- ・石積みや水門、雁木など地域周辺の土木遺構を読みとる
- ・旧街道やその沿道に広がる城下町、宿場町、陣屋町など地域の生い立ちを読みとる
- ・祭りや風習など、地域の特色となる文化・伝統を読みとる

○市街地・集落景観を読みとる

- ・賑わいのある商業地、閑静な住宅地など、まちのまとまりやイメージを読みとる
- ・農地と農家集落、港湾と漁村集落など、暮らしに根付いた街並みを読みとる
- ・周辺の道路からの見え方や見通しなど、沿道と一体的な街路空間を読みとる
- ・地域のシンボル、ランドマークを読みとる

このような視点から読みとった地域の景観資源の中から、重点的に保全・活用すべき景観特性を抽出します。主には、次の5つの「景観」特性に分類されます。

《緑の原風景》	《水の原風景》	《農の原風景》	《歴史の原風景》	《都(まち)の原風景》
				

※景観特性の読み取り方法は、「建築施設編 61 ページのポイント」を参照してください。

2) 地域の景観形成の目標

公共施設の構想段階においては、上記のとおり抽出した地域の「景観特性」を踏まえて、地域の景観をどのように整備または保全すべきか景観形成の目標を設定します。

（3）計画段階

1）景観配慮のポイントを押さえる

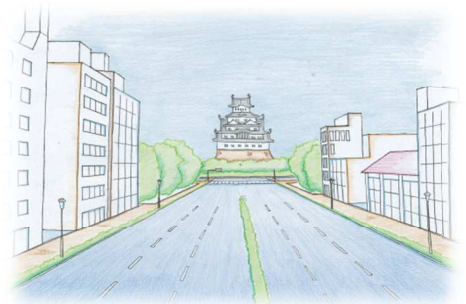
構想段階で設定した景観づくりの目標をもとに、地域の景観特性を活かしたデザイン方針を設定するにあたっては、次のことに留意しながら進めていきましょう。

○見やすさ

良好な景観とは、見たいものが、他のものに邪魔されずに、程よい大きさに見えている眺めをいい、それは心地よい景観です。

街や自然などを印象深く見せるためには、視軸線上に障害物がなく程よい大きさに見せる視点を数多く作ることが重要です。また、視軸線上の障害物（たとえば電線電柱、看板、樹木、擁壁など）を取り除くだけでも、景観上大きな効果があります。

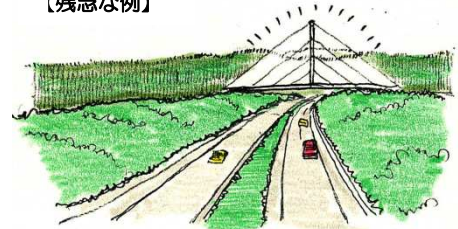
見せたいものを修景することも大事ですが、まずは、見せたいものがきちんと見える工夫をしましょう。



○調和性

公共施設は、あらゆる場面で景観を構成する要素となります。しかし、橋梁や大規模建築物など特別の場合を除いて、公共施設それ自体が主役となることは多くはありません。それぞれの景観の中で何が主役になるのかを見極めながら、公共施設を山並みや水辺などの自然地形に調和させるのか、沿道に並ぶ街並みに調和させるのか、周辺に広がる田園に調和させるのかなどを考えていきましょう。

【残念な例】



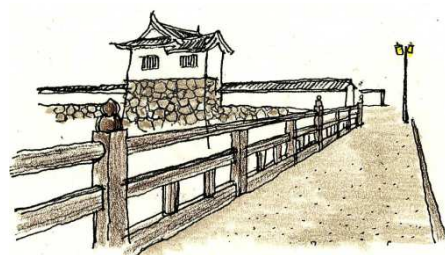
○統一性

公共施設は、その面的広がり、連続性、規模の大きさなどから、都市のイメージを抱く主要な要素となります。また、利用者の広範さ、施設の恒久性から、長期にわたって景観資源となります。そのため事業の計画にあたっては、隣接・近接する他の公共施設との空間的な整備方針の統一と、同一施設での時間的な整備方針の普遍性が求められます。ただし、画一的な整備はかえって単調に感じられるので、時にはアクセントをつけることも必要となります。



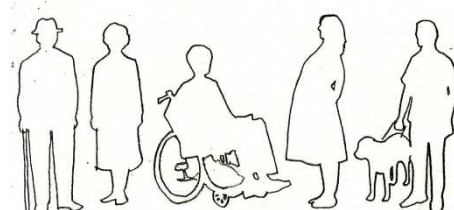
○地域性、歴史性、文化性

景観とは見た目の景色だけを指すのではなく、その地域の歴史や文化が溶け込み、五感で感じることができものです。景観配慮を行うにあたっては、こうした地域固有の特色やその地域での位置付けを読みとり、地域性に応じた配慮を行うことが重要です。



○快適性

公共施設は様々な人に幅広く、長い期間利用されるため、利用のしやすさ、使い心地が求められます。正に人を大事にすることが環境整備です。利用者に不快感を与えたりするような場合は、景観整備とは言えません。自然景観においては、地域に生息する動植物たちにとっての快適性にも配慮する必要があります。ユニバーサルデザインや生態系について検討するなど、利用者の立場に立ったデザインを心がけましょう。



○機能性

公共施設は、交通の円滑、治水・利水、営農環境の向上、レクリエーション機能の創出など、それぞれの役割をもっています。公共施設が持つ本来の機能に加えてデザインも機能の一部です。法令等により定められた基準、機能をデザインの一部とした機能美の創出に心がけましょう。



○安全性

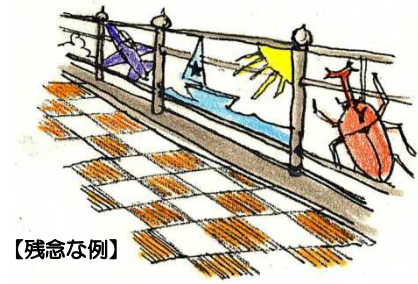
公共施設は老若男女、様々な人が利用するものです。安全が最優先ですが、安全であれば景観が悪くても仕方がないという考えはできません。安全と景観の両立が必要です。法令等により定められた基準とともに、景観配慮を行う必要があります。

○経済性

景観に配慮することが、必ずしもコスト高につながる訳ではありません。景観整備はその場にふさわしいものにするものであり、何か特別のものを作るものではありません。また、同製品の中で色彩に配慮したり、既存材の再利用が処分費と購入費を抑えたりなど、景観配慮とコスト縮減は両立できるものです。

○バランス

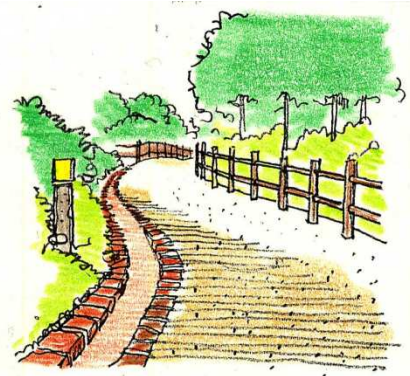
景観配慮を行うことは、単に華美な装飾や色彩を施すことではありません。ヒューマンスケールを取り入れるなど、景観を構成する各要素のプロポーショナルを考え、全体のバランスや収まりのよい景観配慮を行うことが重要です。



【残念な例】

○エイジング

景観は空模様や四季の移ろいなど、時間的条件や時間の経過とともに変化していきます。特に自然地形や自然素材などを含んだ景観においては、時間の変遷とともに、その景観の魅力が成熟していきます。こうした「エイジングの美」についても意識しながら、景観配慮を進めていくことが重要です。



○協働

景観は、市、市民、事業者が共通の目標に基づいて三位一体となって取り組む必要があります。

市が担う道路などの公共空間と市民や事業者が担う建築物などの私的空間が調和することで、統一感のある美しい都市景観が生まれます。その先導的な役割を果たすのが、市です。また、ワークショップなどにより、三位一体の取り組みを進めましょう。



COLUMN

●仰瞰景と俯瞰景

タワーや山を麓から見上げる景観を「仰瞰（ぎょうかん）景」といい、またその逆にタワー上部や山頂から見下ろす景観を「俯瞰（ふかん）景」といいます。

俯瞰景は見やすい景観の一つで、もう一つ見やすい景観としてコンケーブ景があります。それは、凹型の地形であり、視点と視対象の間の空間が一度下がっている景観です。

景観を印象深く見せるためには、見やすい視点を設けることが重要です。



吉井川からの仰瞰景観



操山からの俯瞰景観

2) 景観配慮の重要度の判定と景観デザインの留意点

① 景観配慮の重要度の判定

構想段階で把握した地域の景観特性と地域一帯の景観形成の目標を踏まえて、施設の設計をする上でどの程度周辺景観に配慮すべきなのか目安とするため、景観配慮の重要度を判定します。

○＜重要＞と判定する場合の事例・・・特別の位置付けがある場合

- ・ 景観計画に位置づけがある地域（景観形成重点地区、景観重要公共施設、景観重要建造物、景観重要樹木、等）＜景観法、岡山市景観条例＞
岡山市景観計画を参照
- ・ 景観農業振興地域整備計画が策定されている地域＜景観法＞
指定なし
- ・ 屋外広告物モデル地区＜岡山市屋外広告物条例＞
桃太郎大通り
- ・ 風致地区＜都市計画法＞
後樂園、烏城及び操山地区
- ・ 景観地区＜都市計画法＞
指定なし
- ・ 伝統的建造物群保存地区＜都市計画法＞
指定なし
- ・ 景観まちづくり協定が結ばれている地域＜岡山市景観条例など＞
庭瀬陣屋町周辺、出石一丁目地区周辺、西大寺観音院周辺地区
- ・ 文化財など歴史を語る施設の周辺地域＜文化財保護違法、県・市文化財保護条例等＞
国・県・市指定文化財、登録文化財、地域の誇りとなっている文化財など
- ・ 町並みの保存など景観整備に取り組んでいる地域
足守陣屋町周辺
- ・ 「緑、水、農、歴史、都」の特徴的な景観を有している地域
- ・ ランドマークとなっている周辺4山近郊5山
- ・ その他良好な景観を形成している、もしくはしようとしている地域
- ・ 地域のシンボルとなる公共施設
- ・ 広域的な景観形成の骨格となる公共施設
河川：旭川、笹ヶ瀬川、足守川、吉井川、砂川など
道路：国道、主要地方道など

○＜普通＞と判定する場合の事例・・・特に位置づけがない場合

- ・ 上記以外の地域で、特徴的な景観を有しない地域
- ・ いわゆる一般的な市街地、農業地域、自然地域などを指す

② 景観デザインの留意点

景観配慮の重要度に応じた下記の留意点に注意しながら、地域の場所性にふさわしい景観デザインの方針を定める。

○＜重要＞と判定した場合の留意点・・・位置付けに応じた特別な景観配慮が必要

- ・周辺景観との調和に十分配慮して、異質なものは作らないなど景観への影響を最小限に止める。
- ・周辺景観の価値を高めるため、周辺を引き立てる洗練されたデザインとする。
- ・現にある景観阻害要素は極力取り除き、景観阻害要素を新たに作らない。
- ・良好な景観を見せるために、視点場を適所に設ける。
- ・地形を改変する場合は、切り盛りを少なくするなど大地への傷を最小限に止める。
- ・地域のランドマークや誇りとなる施設は、造形美を追究し、本物志向で質の高いデザインとする。

○＜普通＞と判定した場合の留意点・・・場所性に応じた景観配慮が必要

- ・周辺景観との調和に配慮して、景観を損なわないようにする。
- ・自然、生態及び人に優しいデザインや単調さを避けるためのデザインなどを一つでも取り入れる工夫をする。
- ・無骨な生の構造物に少しでも造形的な美しさを加える。
- ・周辺景観を適正に誘導したい場合は、良好な景観を先導的に整備する。
- ・地形を改変する場合は、大地への傷をできる限り少なくする。

COLUMN

●公共施設とデザイン

市内の公共施設は岡山市の独占状態です。岡山市という独占企業が作り、市民へ提供する唯一の公共施設だからです。市民は他都市と比べて公共施設の良し悪しを批評はできても、自らが使う公共施設を選ぶことはできません。好むと好まざるとにかかわらず市から提供される公共施設を利用せざるを得ません。だからこそ、市職員が厳しい目と確かな技術力を持って、しっかりとした公共施設を作ることが必要なのです。

公共施設には、機能性や耐久性に加えてデザイン性が求められます。一般の商品も同じで、デザインが良くないと売れません。マーケティング上、デザインは商品の販売を左右する重要な要素となっています。ただ、公共施設が一般商品と違うところは、一般商品が斬新性と差別化を追い求めているので、流行や廃りが必ず生じます。

しかし、公共施設は一時の流行や個人の好みに流されてはいけません。公共施設は不特定多数の人に日常的に利用され、また50年100年とその場に存在し続ける施設なので、多数の人に愛される美しさと時代の変化にも色あせない美しさが求められます。このため、公共施設を作る技術者として確かな審美眼を養いましょう。

(写真：西川緑道公園筋)



3) 計画段階 ～施設別景観デザイン～

① 道路景観

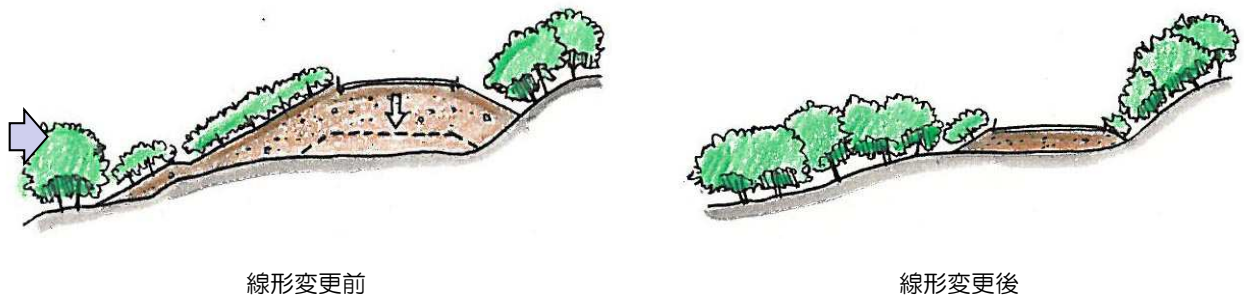
道路の機能は交通の円滑化や安全性の確保を図るものだけでなく、周辺景観を眺める場、眺められる場としての役割もあります。

デザイン方針の設定

○自然景観を活かす

- 地域の特色となる山林・丘陵等の自然地形を有する地域においては、地形を尊重したルートや線形計画に努めましょう。
- 地域の特色となる河川・水路などの水辺空間や、田園・果樹園などの農地を有する区域においては、積極的に景観に取り込む、または周辺との調和に配慮するなど、その活用や保全に努めましょう。
- 地域の特色となる動植物が生息する地域においては、生態系の保全に配慮しましょう。
- 地形の改変量をできるだけ少なくするとともに、自然の復元を図りましょう。

【線形変更により盛土の規模を抑制】



COLUMN

●シーン景観とシーケンス景観

固定した視点からの景観を「シーン景観」、自動車の車窓からの眺めのように、移動する視点からの景観を「シーケンス景観」といいます。道路デザインにおいては、利用する人の視点からのシーケンス景観も重要となります。また延長の長い道路では景観としてのまとまりや連続性を持つことも重要です。

【視点と対象の関係と見え方の展開】



○歴史・文化的景観を活かす

- 史跡や伝統的家屋などの歴史的建造物、石積みや常夜灯などの土木遺構を有する地域においては、積極的に景観に取り込む、または見え方に配慮するなど、良好な景観資源の活用に努めましょう。
- 旧街道に沿って栄えた宿場町、城下町、その他地域の生い立ちを示す地域においては、歴史性との調和に努めましょう。
- 祭りや風習など、地域を特徴づける文化や伝統を有する地域においては、文化・伝統が醸し出す街並みに違和感を与えないように配慮しましょう。

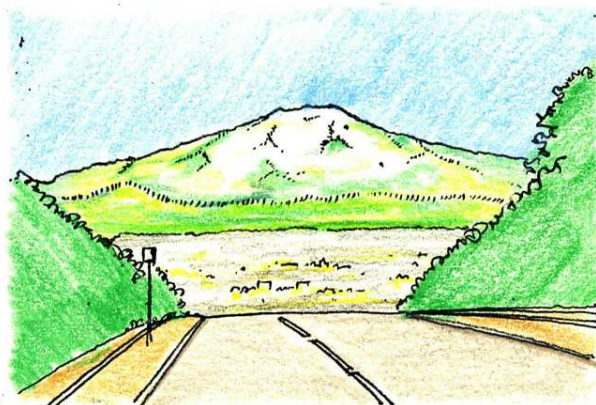
○市街地・集落景観を活かす

- 賑わいのある商業地を特徴づける華やかな雰囲気のある道路、閑静な住宅地に調和した落ち着いた雰囲気のある道路など、街のまとまりやイメージを活かしましょう。
- 農地と農家集落が一体となった農村景観、港湾と漁村が一体となった漁村景観など、その景観に連続性や一体性を有する地域においては、道路による景観の分断や集落等を含む沿道景観との不調和の回避・抑制に努めましょう。
- 地域のシンボルやランドマークを積極的に取り込む、または見通しに配慮するなど、良好な景観資源の活用に努めましょう。
- 街路の幅員と沿道建築物の高さの比（D/H）は、道路のプロポーショナルと呼ばれ街路景観を大きく左右します。街路の性格や沿線の土地利用に応じて、適度な開放感もしくは囲繞感が得られるようプロポーショナルを検討しましょう。

COLUMN

●「山あて」の景観デザイン

山に視線が向くように道路の線形をあてることを、「山あて」といいます。道の景観の中に山（自然）という魅力的な要素を取り込むことで、その地域の景観をデザインするものです。このような仕掛けは富士見坂など昔から色々な場所で行われており、自然を大事にしてきた日本の文化とも言えます。市街地においても、山あての技術を使って、城、神社仏閣、重要公共施設などを道路の正面に据えることによりアイストップを設け、風格のあるビスタを形成することができます。



姫路城

② 水辺景観

広大な流域や連続した流れを有する河川や水路は、自然景観資源を豊富に含んでいるだけでなく、治水・利水を通じて沿川地域の生活や文化と深く関わりを持っています。また、水辺空間は視界を阻害する要因が少なく、開放的な眺望景観が得られるという特性があります。

デザイン方針の設定

○自然景観を活かす

- 治水・利水の機能を確保しながら、できる限り自然地形を尊重した流れとし、護岸の発生を抑えるなど、自然景観との調和に努めましょう。
- 水流のせせらぎや水面に映る風景の取り込みなど、水辺空間の特徴を活かした景観の形成に努めましょう。
- 地域の特色となる動植物が生息する地域においては、生態系の保全に配慮しましょう。



COLUMN

● 囲繞景観と眺望景観

「囲繞（いによう）」とは“囲いめぐらすこと”を意味し、「囲繞景観」とは自分たちを囲むような風景で、落ち着き感、あるいは閉塞感などが感じられるような風景を言います。

これに対し、遠くに眺められ、開放感を感じられるような風景を「眺望景観」と言います。

景観の保全は、「眺望景観」という特定の視対象の見え方だけでなく、地形・植生・水系など身近な身のまわりの景観（「囲繞景観」）の構成要素を全体として保全していくことにより達成されます。

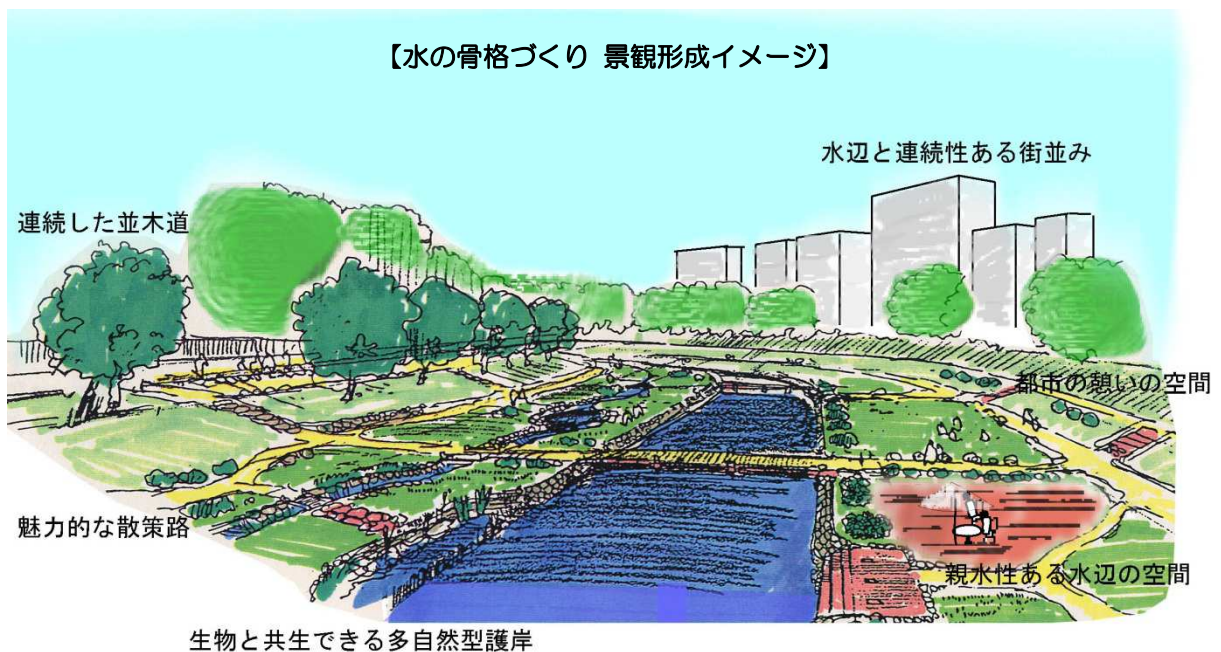


○歴史・文化的景観を活かす

- 史跡や伝統的家屋などの歴史的建造物、史跡や石積みや水門などの土木遺構を有する地域においては、それを保存や修復するとともに、積極的に景観に取り込む、または見え方に配慮するなど、良好な景観資源の活用に努めましょう。
- 高瀬舟の舟運により栄えた港町の面影を残す水路など、地域の生い立ちを示す景観資源を有する地域においては、歴史性との調和に努めましょう。
- 水路網とともに広がる水田が織りなす水郷景観・干拓地景観など、地域を特徴づける生活文化を有する地域においては、文化・伝統による景観に違和感を与えないよう配慮しましょう。

○市街地・集落景観を活かす

- 市街地に潤いをもたらす河川、田園集落を脈々と流れる水路など、水辺のもつ開放的な眺望景観を活かし、地域のまとまりやイメージに溶け込んだ景観形成に努めましょう。
- 地域の住民に憩いや潤いを与えるオープンスペースとして活用を図り、親水性の向上に努めましょう。
- 地域のシンボルやランドマークを積極的に取り込む、または見通しに配慮するなど、良好な景観資源の活用に努めましょう。



※出典「旭川河畔都市景観整備構想」/旭川河畔都市景観整備懇談会のイラストを加筆

③ 橋梁景観

橋梁は河川や溪谷などによって隔てられた二つの地域をつなぐ架け橋であり、人と人とを結びつける役割も持っています。

また、橋梁は他の土木構造物と比べて単体による独立性が強く、規模も大きいいため、橋梁そのものが景観となり得ます。一般的に、大きな河川や谷をまたぐ橋梁はスケールが大きくその存在が目立つため「図」となることが多く、一方小規模な橋梁は背景となる地形や風景になじむ「地」となることが多いと言えます。いずれにしても周辺景観の中にもうま収めるようにデザインしましょう。

デザイン方針の設定

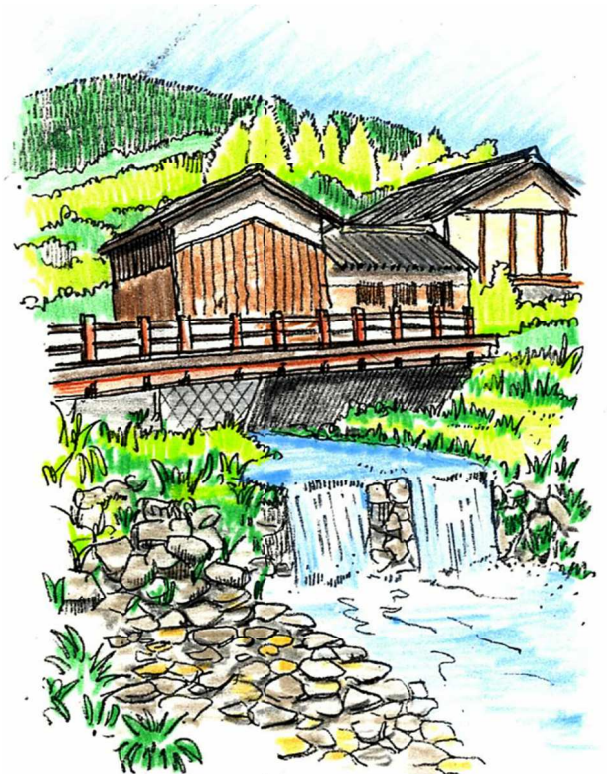
○自然景観を活かす

- 自然地形の中に位置する橋梁の整備にあたっては、地形を尊重した線形計画、周辺に調和した色彩に努めましょう。特に自然地形との接続部については、違和感を与えないよう自然景観の連続性に配慮しましょう。
- 地域の特色となる山脈や水面など良好な景観資源を有する地域においては、橋梁からの眺望景観に積極的に取り込み、その活用や保全に努めましょう。
- 地域の特色となる動植物が生息する地域においては、生態系の保全に配慮しましょう。



○歴史・文化的景観を活かす

- 歴史的な街並みの近隣に架かる、または歴史的な街並みから望見されることとなる橋梁については、積極的に景観に取り込む、または見え方に配慮するなど、景観資源の活用・保全に努めましょう。
- 歴史的な既存の橋梁や土木遺構など、地域の生い立ちを示す景観資源を有する地域においては、保存や修復するなど歴史性との調和に努めましょう。
- 祭りや風習など、地域を特徴づける文化や伝統を有する地域においては、文化・伝統が醸し出す街並みに違和感を与えないよう配慮しましょう。



○市街地・集落景観を活かす

- 市街地へ架かるシャープなイメージの橋梁、広大な河川の対岸集落をつなぐ優美な橋梁など橋梁によってつながる地域のまとまりやイメージを活かした景観形成に努めましょう。
- 橋梁によってつながる二つの地域がもつそれぞれの景観特色に違和感を与えないよう、景観の連続性に配慮した景観形成に努めましょう。
- 地域のランドマークとなる橋梁、周辺の景観に馴染ませる橋梁など、橋梁のシンボル性に応じた景観形成に努めましょう。

COLUMN

●道路景観と街路景観

道路は郊外部を通り、都市間あるいは地域間の交通を円滑に処理することを目的としています。一方、街路は市街地内を通り、交通を処理するだけでなく、沿道へのアクセス、市街地内のオープンスペースなど多様な機能を有しています。

道路と街路とでは、地域や機能が違うように景観のあり様も異なります。

道路景観では、道路以外に農地や集落など周りの様々な土地が見えていますが、街路景観では、街路自体と沿道の建物の壁しか見えません。

道路については、地域の特徴（地形、土地利用、生物相など）を破壊しないように、地域の傷を最小限にとどめる工夫が必要です。

街路については、道路正面の視軸線阻害をなくすとともに、沿線の商店や歩行者が引き立つような控えめな配慮が必要です。

●シーニックバイウェイ

景観・シーン（Scene）の形容詞シーニック（Scenic）と、わき道・より道を意味するバイウェイ（Byway）を組み合わせた言葉。地域が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境づくりを目指す取り組みです。アメリカで先行して取り組まれている制度ですが、わが国でも日本風景街道（シーニック・バイウェイ・ジャパン）として、平成 26 年 4 月までに全国で 134 ルートが登録されています。



④ 緑地景観

公園や緑地は、街に緑を呼び込むだけでなく、地域住民の憩いの場として幅広い人々から長期にわたって利用されるものであり、都市のイメージを特色づける主要な景観要素です。豊かな緑は私たちの生活環境に潤いを与え、四季折々の変化を楽しませてくれる貴重な空間となります。

デザイン方針の設定

○自然景観を活かす

- ・緩やかな起伏の広がる丘陵や地域のシンボルとなる樹林など、優れた景観資源を有する地域においては、自然環境・地形を尊重した配置計画に努めましょう。
- ・地域の特色となる河川・水路などの水辺空間や、田園・果樹園などの農地を有する区域においては、積極的に景観に取り込む、または周辺との調和に配慮するなど、その活用や保全に努めましょう。
- ・地域の特色となる動植物が生息する地域においては、生態系の保全に配慮しましょう。

○歴史・文化的景観を活かす

- ・古墳や寺社仏閣、一里塚など、地域の特色となる歴史的景観資源を有する地域においては、積極的に景観に取り込む、または見え方に配慮するなど、良好な景観資源の活用に努めましょう。
- ・寺社の境内や城趾広場など、古くから地域住民に慣れ親しまれている緑地の整備にあたっては、歴史性との調和に配慮しましょう。
- ・祭りや風習など、地域を特徴づける文化や伝統を有する地域においては、文化・伝統が醸し出す街並みに違和感を与えないよう配慮しましょう。

○市街地・集落景観を活かす

- ・地域のシンボルとなる広場、都市の緩衝地帯となる公園など、園内空間と周辺景観との結びつきに配慮した景観形成に努めましょう。
- ・生活環境に憩いや潤いを与えるオープンスペース、レクリエーション空間としての機能の向上に努めましょう。
- ・市街地の中で安らぎを感じる緑地、郊外の自然に触れ親しむ緑地など、地域での役割に応じた景観形成に努めましょう。



（４）設計段階 ～施設別景観デザイン～

① 道路景観

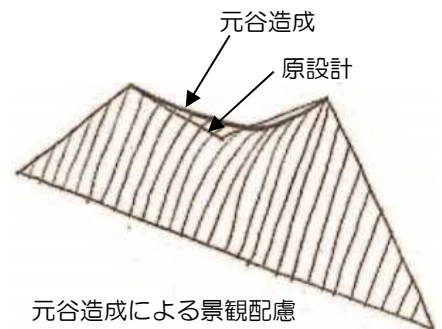
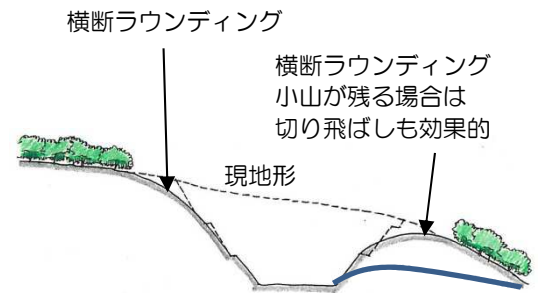
○地形改変（造成）

地形の改変に伴う長大な法面の発生は、周囲の自然景観に対して大きな違和感を与えます。また改変後の地形は直線的な線形・断面となりやすく、自然地形との不調和を感じさせます。

線形や配置等の工夫により、大規模な法面の発生はできる限り避け、自然地形を尊重した形状となるよう配慮しましょう。やむを得ず発生する場合は、自然地形との円滑な連続性を確保するラウンディング、元谷造成及びグレーディング等の「アースデザイン手法」の導入を検討しましょう。

■山、丘陵地、斜面などの自然景観との調和に配慮する

- 「ラウンディング」は、法面と周囲の地形との連続性を確保するため、丸み付けを行うもので、景観上の効果に加え、浸食防止等の効果も期待できます。法肩のラウンディング処理とともに緑化修景等の法面処理により圧迫感を軽減し、周辺景観との調和を図ることができます。法面前後の端部で行う縦断ラウンディングと法肩部の横断ラウンディングがあり、造成の範囲は広がっても土量の変化はわずかです。
- 「元谷造成」は、もともとの谷地形が法面の背後に残る箇所において行うもので、地形の谷線にあたる切土法面の造成勾配を緩くし、加えて自然地形に倣ってラウンディングによって現地形に擦りつけるものです。もともとそこにあった谷地形を復活させることにより自然の地形秩序を継承することができます。
- 「グレーディング」は法面を自然地形に近づける効果を狙って緩やかな勾配にすることであり、植生が自在になるとともに自生種の進入も容易になります。地形との連続性を持たせるためには、地形に倣って法面勾配を自在に変化させた方が、より効果的です。



【グレーディングによる景観配慮】



■橋梁・トンネル構造等の採用

- 長大法面が出現するような場合には、橋梁、トンネル、擁壁、腰石積み等を採用することで、長大法面の発生を回避し、自然改変を抑える検討を行いましょう。盛り土高さが 20m を超えると景観上違和感が大きくなると言われています。

○構造物（擁壁）

大規模な擁壁は、周囲の自然景観に対して違和感だけでなく、圧迫感も与えます。一方で、適切な規模の擁壁は、長大な法面を回避できるなど自然景観保全の役割を果たします。

やむを得ず大規模な擁壁が発生する場合には、安全上支障のない範囲において、位置や工法の工夫により規模を最小限にとどめるとともに、緑化ブロック等による修景緑化や、表面処理による意匠の工夫（たとえば縦スリットによる分節）、地場資源（木材・石材等）の活用等により良好な地域景観の形成・保全に努めましょう。また、擁壁前面への植栽等により壁面の見えがかりを抑えるなど周辺景観との調和に努めましょう。

法面のコンクリート処理は必要最小限度とし、法枠工の場合はフレームの縦枠に比べて横枠の存在感を弱めるような造形的な配慮を行うことが景観上効果的です。

■山並みが形成する自然景観との調和に配慮し、擁壁をなるべく目立たないよう工夫する

■無骨で単調なコンクリート擁壁に造形を施し、形やプロポーションを整える。



規模を抑えた擁壁と豊かな植栽が周辺の自然景観と調和している



法枠内部への緑化がコンクリートによる無機質な印象を和らげている

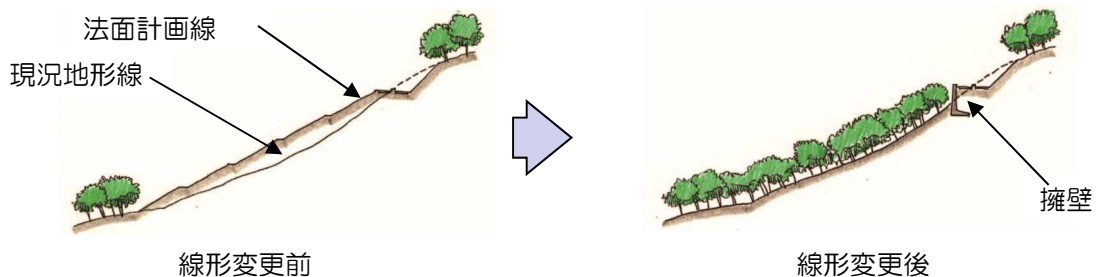


支壁とスリットを用いて、横に長い擁壁を分節化することにより、形を整えている（堀繁氏デザイン）
（※堀繁著「景観からの道づくり」から転載）



（残念な例）化粧型枠を使った擬似玉石積は味気ない
安易な化粧（修景）はだめ、造形で形を整える

■適切な規模の擁壁により、自然地形及び自然環境を保全する



○舗装

舗装は、周辺の地域性・歴史・文化等を反映させる要素となると同時に、その主張が強すぎれば、かえって地域景観に違和感を与えてしまい、道路景観の統一性・連続性も損なわれます。ユニバーサルデザインを検討するなど、利用者の安全性・快適性を確保するとともに、周辺景観に配慮したものとなるよう努めましょう。

舗装材および色彩の選定にあたっては、地域景観、沿道景観及び付属施設との調和を図りながら、地域特性に応じたデザイン、地域の基調色に応じた落ち着いた色彩とし、統一感のある景観形成に努めましょう。なお、維持・補修により当初の景観が損なわれる場合があるので、長期的に良好な景観が保全されるよう、管理面も考慮した素材・意匠・色彩としましょう。

歴史的街並みが残る地域では、地場資源の活用や落ち着いた色彩の選定等により周辺景観との調和に十分配慮しましょう。また、周辺施設や付属施設と一体的な景観形成を図るため、整備方針の統一に努めましょう。

歩道の舗装材は、歩きやすいものを用い、それ自体が目立つのではなく、沿道景観や歩行者、植栽が映える色調で控えめなデザインにしましょう。安易に模様貼りなどは行わず、シンプルなものとするのが基本です。

■隣接する公共施設や建築物と一体的な整備をすることにより、地域の個性を演出する



隣接する公園との連続性や一体性に配慮している



隣接する美術館と一体的な景観を形成する舗装材の選定により文化ゾーンのイメージを表現している

■地域の有する歴史・文化性に応じた配慮により、地域の街並みとの調和を図る



周辺の街並みとの調和に配慮した舗装材の選定



(残念な例) アスファルト舗装にペイントを塗った擬似土舗装は素材感が悪い

○防護柵

防護柵等の安全施設は、交通安全上の必要性から設置されるものですが、統一性や連続性に欠けた防護柵等は景観形成上好ましくありません。

設計に際しては、まず、安全性を確保したうえで、周辺景観に配慮した防護柵のほか、低木の植栽帯やボラード等景観に配慮した代替施設の採用など、防護柵によらない安全確保の方法についても検討しましょう。設置にあたっては、形状・色彩の統一に努めるとともに、その他の付属施設を含めた適正配置についても検討しましょう。

特に自然景観資源を豊富に有する地域においては、道路内部からの走行景観及び道路外部からの自然景観を阻害する要因となりうるので、設計に際しては、見通し可能な構造にするなど、十分な配慮を行いましょ。

■代替施設の設置により、沿道景観との調和に配慮する



駒止めによる代替がすっきりとした道路景観を形成している



植樹帯による代替が緑豊かな道路景観を形成している

■主役となる自然景観との調和に配慮し、見るものの快適さを創出する



透視性の確保と自然景観に溶け込む色彩により、周辺景観に調和した防護柵



○道路付属施設

過剰なデザインやまとまりのない付属施設は周辺景観に影響を及ぼすだけでなく、その規模や配置によっては通行の支障ともなります。適切な規模・配置及び施設の統合により、すっきりとした空間の形成を図るとともに、意匠や色彩についても施設間でまとまりのない景観とならないよう、設置の舞台となる道路や、周辺施設、沿線と統一感のある景観形成に配慮しましょう。

また、地域や道路とは何ら関係性のないモニュメントなどのデザイン工作物は設置しないようにしましょう。

■視界を遮るものを統合し、快適性を創出するとともに安全性にも配慮する



電線類の地中化や街路灯・信号機・標識類等の統合がすっきりした歩道空間を形成している

■適正な配置により、まとまりのある道路景観を創出する



街並みとの色彩の調和と施設の集約に配慮された道路付属施設

■施設の集約により、すっきりとした道路景観を形成する



植樹帯の内部に設置することにより、通行の支障にも配慮されている

植樹帯とベンチの組み合わせにより、オープンスペースを有効に活用している